

東照宮およびそれに関連する徳川家康に関する研究書、研究論文は膨大だが、比較的に入手し易く、理解り易い刊行本としては、『世界遺産・聖地日光』（下野新聞社）、『家康公と全国の東照宮』（東京美術）、『日光東照宮』（日光東照宮社務所）などがある。

また、全国の東照宮を結び付ける組織としては、昭和40年に結成された「全国東照宮連合会」があり、その加盟社は年々増加してきたものである。また、全国に確認される東照宮の数も現在では700を越えるようである。

ただ、その全てに日光東照宮にある陽明門、上野東照宮のような豪華な建造物を想像されてしまうのは誤りで、むしろ質素で小さい祠のような社殿、あるいは地元の氏神社などに合祀されていたり、名前が変更されたもの、所在が不明確なものなどの方が圧倒的に多い。

なお、東照宮が成立した江戸時代、その背景には本地垂迹を基調とする天台宗の神道（神仏習合の宗教）、並びに人を神として祀る民俗宗教があり、その姿は「コーヒー牛乳」のようなものであった。コーヒー牛乳を語るには、両者を語り、味わって頂かなければ正確な歴史ではなく、明治の神仏分離以降に生まれた一般庶民に対して間違った認識を与えてしまうかもしれない。それはまた全国を平定して戦乱を終結させ、国家の安穩・安寧をもたらし、常に見守ろうとした家康公の遺志とは異なるように思える。その一方で、まずは「喫茶店」にお越し頂くことが肝心とも思われる。

- 天文11年（1542） 徳川家康、岡崎に生まれる。
- 元和2年（1616）4月17日 徳川家康、駿付城にて薨去（75歳。満73歳）。
●4月2日の時点で崇伝・天海・本多正純を病床に招き、死語の手順を打ち合わせる。
（遺言内容）
遺体は久能山に納める。葬儀を増上寺（浄土宗）にて行う。霊牌は三州大樹寺（浄土宗）に置く。1周忌を経て日光山に小堂を造営して勧請祀する。これにより「関八州の鎮守となる」と。
→京都には南禅寺金地院に小堂を造営。
→大名・旗本の弔問無用、増上寺以外の法要無用を通達。
→久能山に遺体を納め、西国鎮護のため神像を西に向けて安置しろと命じる（16日）。外様大名への警戒心。
- 19日 神龍院梵舜により「唯一神道」に基づく祭儀、仮の葬儀。
戒名は浄土宗による「安国院殿徳蓮社崇誉道和大居士」
- 22日 「大明神造り」にて仮殿造営の指令、翌年12月頃に完成したのが「久能山東照社」
- 11月17日 日光東照社造営はじめ（翌年3月には完成）。
※なお、当時の東照社はほぼ残っていない。群馬県世良田東照宮に拝殿として残る。
- 同年 ▲伝・元和2年に「増上寺東照社」創建。
- 元和3年 2月21日 朝廷より家康に対して「東照大権現」の神号勅許。
3月9日 「正一位」の神階贈位。

3月 日光東照社が完成する頃、江戸城紅葉山に東照社造営が決まる。
→翌年4月には完成。

4月～ 「山王一実神道」（東照宮神道、天台神道）により久能山から日光に
改葬※。

元和4年

4月 ▲江戸城紅葉山東照社創建（西の丸東北の位置。かつて江戸市民の氏
神とされた山王社のあった地。これは遠い日光に代わるもの。また、
ここには後に徳川歴代の御霊屋が建立される。）。ここでの法要は別
当職となった浅草寺の僧侶が担当。観音院といったが知楽院と改める。
▲浅草・浅草寺に東照社創建。これは江戸庶民の参拝に配慮したもの。
もともと浅草寺は家康にとっての祈願寺。一方、寛永8年（1631）の
火災で焼失。同12年に再建。しかし、同19年に再び焼失し、以後の再
建は許されなかった。御霊は紅葉山に移され、ご神体は現在の浅草神
社に祀られた。なおこの時の名残となる隨身門が現在は二天門として
残り、また石橋も残る。なお、この隨身門はもともと浅草寺の東門を
転用したものと考えられる。

浅草東照社の再建が許されなかったのは、上野の東照社をもって浅草
寺の東照社に代える意図があったと想像される。浅草神社こと三社権
現社は慶安2年（1649）に家光が再建したもので重要文化財ともなる。
→元和9年参照。

元和8年

▲江戸城本丸に東照社創建（秀忠の私的なもの。簡素。寛永14年に家
光はこれを「二の丸」に移転して再建）。前述のように私的な東照社
であったと考えられ、家光の没後、承応3年（1654）に紅葉山東照社
が新築されると、ご神体は紅葉山東照宮に移される。建物である社殿
は埼玉県川越の仙波東照宮に移築される。

元和9年～寛永4年（1627）藤堂高虎は下屋敷に小祠を建てて東照社を勧請していたという。ただ、
正式には寛永4年（1627）に高虎の建立した寛永寺の寒松院（これは
高虎の法名）境内に東照社は建立され、その後に伽藍は拡張された。
これは私的な東照社といえるものだが、家光は慶安4年（1651）にこ
れに代わる新たな上野（寛永寺）東照社を完成させる。

もとより寛永寺は幕府の祈願寺であり、のちに菩提寺ともなる寺院。
この東照社は私営から官営に造り替えるものであったといえ、浅草寺
の東照社の再建を許さなかったのも、庶民参詣寺ではなく官寺たる寛
永寺の存在を重視したと思われる。

※なお、江戸市中には私営の東照社が伝通院・昌泉院（根津神社）・
護持院（護国寺）など多数あった。

寛永11年

11月17日 日光東照社造営に着手。寛永13年に完成。

→はじめ日光東照宮（天海・本多正純・藤堂高虎）は2代秀忠により
造営。しかし、3代家光により撤去されて、新たに造営。この日光で

の特徴は家康の墓としての「宝塔」を伴う（久能山は奥社に供養塔としての宝塔あり）。

正保2年（1645）

東照（権現）社→「東照宮」へと宮号（ぐうごう）の宣下。

（※天満宮）

（基本）

● 仏（如来）や菩薩などはそれぞれの浄土をもつ。

阿弥陀如来→→→→（西方）極楽浄土

観音菩薩→→→→補陀落浄土

薬師如来→→→→東方浄瑠璃浄土

東方瑠璃光浄土

● 「東」への意識

（関西）比叡山延暦寺 ←→ 東叡山無量寿寺北院（喜多院）



東叡山寛永寺円頓院

「東照大権現」には「東照三所大権現」という呼称もある。一方その「東照三所大権現」と「日光三所大権現」とは異なる。「東照三所大権現」は「東照大権現」・「山王大権現」・「摩多羅神」をいう。「日光三所権現」とは男体山（新宮権現。本地・千手観音。天尊は大黒天）、女峰山（滝尾権現。本地・阿弥陀如来）、太郎山（本宮権現。本地・馬頭、天尊は毘沙門天）。

高藤晴俊氏による分類より概略

将軍家の東照宮	有力者・庶民が祀る
江戸城内	個人
家康ゆかりの地の東照宮	民衆のため
大名の祀る東照宮	明治初年に勧請
御三家	家康巡行の地
親藩	日光への遷座
譜代	軍事行動の休憩地
外様	鷹狩りの地
寺社（社寺）境内	御成御殿跡
寺院境内	その他、特殊な東照宮
神社の社殿に相殿として合祀	
神社境内の末社	